

残雪合宿 (山形県月山) MTBO のつどい (長野県菅平高原) 2008 年 5 月



ぽかぽか陽気の雪の上、極寒の MTB。どこまでもアウトドアなシーズンオフ

ぽかぽか陽気の残雪合宿

3 月でひと段落したスキーシーズンだが、滑り納めは毎年恒例 GW の残雪合宿だ。今年は去年好評だった山形県月山で 3 泊 4 日の合宿を行った。月山といえば、全国でも有名な夏スキーのメッカであり、そのスキー場開きは 4 月。冬期は人が近づけないほどの積雪があるところだ。そんな豪雪地帯にも温暖化の影響が出ているのか、今年は例年よりも雪溶けが早いという情報を耳にして合宿へと向かった。

道中の車内は窓を開けるかクーラー入れないと暑いくらいで、雪解けの不安をより一層掻き立てた。

実際の現地は予想以上に雪が残っていて、4 日間とも十分なトレーニングができた。それでも、一日一日雪溶けが進んでいるのは目でもはっきり確認できる程だった。

スキー場下部でのトレーニングでは、T シャツ一枚で滑れるほど暑かった。スキーは寒いから嫌いだという人にも、こんな天気の中でならきっと楽しんでもらえるだろう。初日は久しぶりの雪の感触を楽しみつつ、翌日のために体力を温存して終わった。

2 日目、この合宿のメインディッシュともいべき月山登山だ。スキー場の一番下からリフトを使わずに登るグループとリフトの終点から自力で登るグループとに分かれ山頂を目指した。去

年はアイスパーン状でガリガリだった斜面が、今年は雪面が少し解けやわらかくなっていたため、とても登りやすかった。途中で二つのグループは合流し、全員が予定していた時間内で登頂することができた。登っている最中は暑くても、さすがに山頂付近では風が強く上着がないと寒い。周囲の山々を見渡せる展望は最高だった。

下りはほとんどの人が転びながらも、スケールの大きなダウンヒルを思い通りに楽しんだ。私は調子に乗ってターンをきめていたところ、バランスを崩し頭から大クラッシュ！怪我はなかったが、マップホルダーがぐしゃりと曲がってしまった。慣れてきた頃が一番危ない。最後まで気を抜いてはいけないということを感じた。

スキーの他にも、ポールウォーキングや筋トレ、加圧トレーニングのデモンストレーション、パズル形式での地図読みなど、合宿メニューは盛りだくさんだった。白銀世界でのスキーも楽しいが、今回のような残雪合宿もまた違った楽しさがある。一度参加したらまた来年も来なくなる合宿だ。

極寒の MTB-0 のつどい

残雪合宿から 4 日しか経っていない 5 月 10 日、今度は MTB-0 のつどいに参加するため菅平に向かった。8 月にポーランドで開催される世界選手権の選考会を兼ねたイベントで、土曜日にスプリント、日曜日はミドルと 2 日間にわたって行われた。

会場に到着したときには今にも雨が降り出しそうなどんよりした天気。さらには、気温の低さにびっくりした。つい 4 日前までは、T シャツ一枚でスキーが出来ることころにいたため、頭も体も完全に春夏モードだった。菅平が涼しいことは知っていたが、この 2 日間はとても気温が低かった。実際、日曜の朝は雨ではなくみぞれが降っていたくらいだ。気温 5 の中、時速 30km のスピードで走ると体感気温はマイナス 6 度くらいになるそうだ。それに加え、雨で全身が塗れた状態だったので、スキーヤーの自分でさえもものすごく寒いと感じたのは当然のことだろう。特に指先は冷たいのを通り越して痛みを感じるほどだった。

スプリントではスタート直後、コンパスがないことに気づいた。MTB-0 のとき、私は手の甲にコンパスをつけて走るのが、すっかり忘れていた。フット 0 に比べて地形や方向を見ることが少ない分、コンパスがなくても致命的ではないが、心理的には動揺した。

レース内容は久しぶりのオリエンテリングだったこともあり、コントロールでの動きがもたついた。スプリントならばなおさら、もっとスムーズな動きが必要だったと思う。完全に練習不足だ。

日曜のミドルはトレインの一部が濃霧に覆われ、難易度がアップ。雨で路面状況が悪いことも私たち選手を苦しめた。私は、1 ポから 2 ポに向かうところをレグ線を読み間違えて 16 ポに行くという序盤から単純なミスをしていた。中盤でもつながっていない道をつながっていると読み間違えたり、複雑な分岐で間違った方向へ進んでしまったりとミスを連発した。結果としては、一位の多田さんから 6 分遅れの 69 分で二位だった。多田さんには去年一度も負けることがなく、自分の方がひと回り速かっただけに非常に悔しい結果だ。国内ではリベンジを果たす機会はなく、次のレースは 8 月の世界選手権本番となる。

今回は運営に回った二選手も加わるので、最低限日本人としてはトップの力をつけ、世界を相手に戦える準備をして望みたい。

予想外に速かったのが、スキー 0 でも急成長中の黒田さん。クロスバイクにスキー 0 のマップホルダーと道具の面ではハンデを背負ってのレースにも関わらず 3 位という好成績だった。

(堀江守弘)

